

Pick up イベント

神戸哲学カフェ「あなたは今夢を見ていないと言えるか？」

日時：11月15日（日）13:30～16:00

場所：コーヒーショップ JUN

進行：桑原英之

参加者によると、テーマをみて何を問われているのかわからなかったらしい。起きてますとか、そういう答えではなさそうである。あなたは将来に希望（＝夢）をもっていないと言えるかという意味なのか、という質問もあった。説明するところなる。「いまここで人と話してると思ってるかもしれませんけど、そういう夢をみてるだけかもしれませんよね」。問い合わせはパリー・ストラウドの『君は今夢を見ていないとどうして言えるか』を改変し拝借した。もっとも、読んでないからタイトルだけが元ネタである。懐疑論と呼ばれているが、参加者全員が最初に出した答えは「言えない」である。最後も同じく「言えない」である。どのような答えも「でも、それが夢じゃないと言えるの？」という反問を退けることが難しいからである。もちろん、言えないという結論より大事なことは、その難しさが何に由来するかを知ることであった。そして参加者のみなさんが敢えて「言える」の立場に立ち、答えを一つ一つ（感覚、科学、etc.）吟味してくれたおかげでポイントが見えてきた。全員が確認したのは次の事である。「問い合わせをなすには、夢ではない別の何か（例えば現実）が要請される」。夢があるならそれと区別される何かがあるという意味ではなく、それは夢ではないかと問う問い合わせ自体が意味を持ちうるための〈基盤〉は、夢だけでは成り立たないという事である。さて、では今がその現実だろうか？ 最後にこの問い合わせが残った。

（報告：桑原英之）



コーヒーショップ JUN：神戸市営地下鉄「大倉山駅」より徒歩1分、阪急・阪神電鉄「高速神戸駅」より徒歩5分。

【神戸哲学カフェ】

2005年から続いている哲学カフェです。コーヒーショップ JUNが主な開催場所です。現在は隔月で開催しています。参加人数はだいたい10名前後で常連さんもいらっしゃいます。参加費は1000円。ワンドリンク+サンドイッチ付。わいわい話しがはずむことも、閑々と考え込むことも、煮詰まって沈黙することも、いろいろありますが、その場で生まれる参加者の言葉を大事にしてのんびりとやっています。

来年二月に、中之島哲学コレージュで「哲学への権利」というドキュメンタリー映画の上映が予定されている。この映画はフランスの学者ジャック・デリダが設立した「国際哲学コレージュ」のその後を追ったものである。詳しい内容は本編を見ていただくとして、「哲学への権利」という言葉が、近頃妙に気になっている。

哲学することが、なにかについて考えるという思考の実践であるとして、何について、どのように考えることが「権利」なのか。私たちは自分の考えたいことを考え、発言する自由がある。「哲学への権利」もまた、こうした思考の自由、権利に類するものなのだろうか。

ところが、カントは、自分の考えたいことを考えることは、哲学者ではないと言う。カントによれば、哲学的に考えるとは、今自分がたまたま置かれている立場、条件でどうするかを考えることではなく、自分以外の他人、どの立場に置かれている誰であってもそうすべきだといえることは何かを考えることである。自分の関心や置かれている立場から物事を考えることは誰もがする当たり前のことである。むしろ、自分から離れて考えること、自分と他人とがともに考え、議論することができるような思考の場所を作ること、それが思考する自由であり、哲学するという権利なのだとカントなら言うだろう。

思考の場所であるべき大学や学校は今や、市場化が進み、自分の利益を増やす技術、理性の私的使用としての思考を教える場所へと変貌しつつある。哲学コレージュは、人々にとって自由に思考する場所、哲学への権利を保証する場所であります。それができるだらうか。

【高橋綾】
大阪大学コミュニケーションデザインセンター招聘教員、カフェフィロ事務局。大人やこどもの哲学対話の実践を行はが、お笑いユニットひし形を結成、笑いの哲学を思考、実践している。

哲学への権利

高橋
綾

メンバーコラム

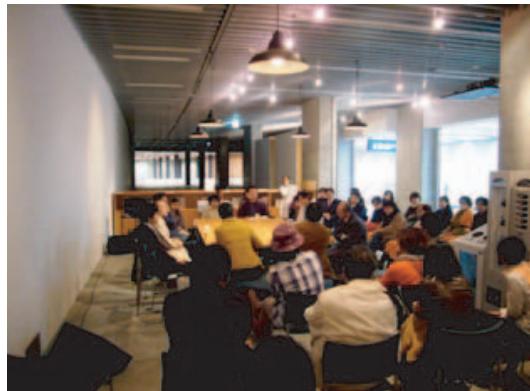
京阪なにわ橋駅構内「アートエリアB1」にて開催している中之島哲学コージュ。十一月十七日（火）開催の哲学カフェ「患者中心のケアってどうじうこと?」には、雨にもかかわらず四十名近い方が参加されました。

ケアを受けている方、御家族の介護をしている方、看護・介護・福祉の現場で働いている方、現在ケアとは縁がないという方等々、年齢も立場も異なる方々から意見が出されるなか、全体としては「中心」という言葉をめぐつて「中心ってどうじうこと?」を問うかたちで議論が展開していました。

「企業が『顧客志向』というのに似ている」「もともと医療者の視点から出されたことばであるなど、普段当然のように使われている言葉を改めて吟味してみると、この言葉がいかに与えられたフレーズであるかに気付かれます。議論の中で、『医療でも看護でも介護でもなく、患者中心の「ケア」であるところを考えたい』、『誰が』中心かではなく、『生活』が中心ではないかと言っていた点が大変印象に残りました。本当に良いケアとは何であるかは、私たち自身で考えいかなければならぬのではないのでしょうか。全般に医療関係者の方の発言が多かったせいか、医療の受け手の方の発言が少數派となつたことも、ケアを語り考えていくのは誰であるのかを考えさせられるところです。

研究会でもなければ講演会でもなく、医療者の方々とケアを受ける方々とが同席し垣根をはらつて対話できる場がないことが現状だと思いました。このような場そのものが貴重に思えた時間でした。

カフェに御参加くださった皆さま、ありがとうございました。
(報告：高山佳子)



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下構内に設けられたアートエリアB1。中之島哲学コージュでは、哲学カフェや書評カフェ、公開セミナーといったプログラムを提供している。

2009年10~11月活動一覧

- 10/11 シネマ哲学カフェ『続・逆転夫婦！？』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 10/11 対話セミナー：問答法にチャレンジする アートエリアB1 中川雅道
- 10/20 哲学カフェ「本当の私？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 10/23 哲学カフェ「ありのまま、とは？」 アートエリアB1 岡辺裕美
- 10/24 哲学カフェ「人格教育、道徳教育、『心の教育』？」 Klein Blue 寺田俊郎
- 10/25 書評カフェ「医学の危機あるいは反医学の危機？」 カフェP/S 松川絵里
- 11/9 〈ツヅク！〉第5回：南方熊楠『南方熊楠隨筆集』 さする庵 西川勝
- 11/15 哲学カフェ『働く』ことについて 伊丹・クロスロードカフェ 井尻貴子・本間直樹
- 11/15 哲学カフェ「あなたは今夢を見ていないといえるか？」 コーヒーショップJUN 桑原英之
- 11/17 哲学カフェ「患者中心のケアってどうじうこと？」 アートエリアB1 高山佳子・西川勝
- 11/17 哲学カフェ「なぜ人は嫌なことは覚えているのにうれしいことは忘れてしまうのか？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 11/21 哲学カフェ「自分の考える自分と他人からみた自分は何が違うのか？」 よなか国際交流センター 山口真理子
- 11/27 アートと考える「そん-りつ【存立】」 アートエリアB1 宮本博史・西川勝
- 11/22 シネマ哲学カフェ『ボヴァリー夫人』 シネ・ヌーヴォー 本間直樹
- 11/28 哲学カフェ「われわれは自由か？」 Klein Blue 寺田俊郎

賛助会員募集中

カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費3,000円）を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶 瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しくは、info@cafephilo.jpまで。

CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒560-8232 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学研究科 本間准教授室内

e-mail : info@cafephilo.jp http://www.cafephilo.jp

哲学喫茶瓦版 2009年12月25日発行

発行人：本間直樹 編集・デザイン：井尻貴子・松川絵里

